

調達価格等算定委員会（第112回） 議事要旨

○日時

令和8年1月9日（金）9時57分～11時19分

○場所

オンライン会議

○出席委員

秋元圭吾委員長、安藤至大委員、岩船由美子委員、大石美奈子委員、松村敏弘委員

○オブザーバー

農林水産省、国土交通省、環境省、消費者庁

○事務局

日暮新エネルギー課長

○議題

風力発電について

○議事要旨

委員

- ・ 事務局案に賛成。
- ・ 全体の方針としては、まずは一定量の導入を実現してコストの推移を確認し、その次の段階として導入量の目標やどう実現していくかを考えていく必要がある。
- ・ 浮体式洋上風力については、現状では実証段階である点などを踏まえ、FIT・FIP 制度で支援すべきかも含めて現実的に導入を進めるための方法論を今後も議論すべき。
- ・ 案件を進めやすい海域を整理したうえで条件の良いところから進めるという段階を丁寧に踏んでいただきたい。最終的には、立地が悪い海域はやらないという姿勢もしっかり方針として打ち出すことも重要。
- ・ 実証段階であることを踏まえれば浮体式は FIT・FIP 制度で支援するものでもないように思うが、今の陸上風力や着床式洋上風力とそこまで差がない価格を設定できるのであれば、支援を継続するという整理もあり得る。
- ・ 第1ラウンドの海域について、事業者選定は迅速に進めていただきたい。
- ・ 着床式と同時に浮体式についても技術革新が起こることを期待して進めてほしい。
- ・ 他にも重要な要素はあると思うが、低価格で入札するインセンティブを与えることにより、国民負担を減らし、効率的な事業者が入ってくること自体は重要。

- その時点では想定することのできなかつた費用の上昇が様々な要因で起こるということが分かつたため、そのリスクを全て事業者に負わせるのではなく、分担するということになれば結果的に電力需要家にとつてもメリットがあるのではないか。
- 陸上風力の IRR について、昨年度は引き下げて 5%とするものが据え置いて 6%とする案が出てきているが、調達コストが上がっている中では下げるというのは適切ではないという判断と解釈。
- 洋上風力の進め方としては、基本的にはコストが低いものから順番に導入される制度設計をしていくべき。
- コストが高いということは、電気料金という形で負担が発生することであり、負担の問題と洋上風力の導入のバランス点を見いだす必要があるのではないか。
- 全体の電源間のバランスも踏まえながら制度設計をしていくことも重要。

事務局

- 洋上風力の進め方について、全体に関わることであるので関係委員会とも連携していきたい。
- 撤退が起こつた 3 海域について、新しい制度の下で速やかに再公募を目指していきたい。
- 浮体式洋上風力の政策全体の進め方について、いただいたコメントを踏まえて整理を進めていきたい。

委員長

- 事務局提案に基本的に異論はなかつた。
- 事務局においては、電源とのバランスを踏まえながら、洋上風力発電の価格設定や案件形成の進め方と、国民負担の抑制と導入拡大を両立させるための仕組みについて、以降の本委員会において政府としての考えを示していただきたい。